

第2回恵那市産業振興ビジョン検討部会（林業部会）

	基本方向	基本施策	狙い	課題	前回までの検討部会での意見	対応状況	R2 事業案	
①地域産業の発展・活性化 ②新たな起業の応援	ものづくり産業の振興	地域資源の活用とブランド化	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	・オリジナル製品開発 ・付加価値の高いビジネスモデルの構築 ・山を維持しながら資源として活用する取り組み	<p><オリジナル木工製品の開発について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○他市の取り組みを参考に消費財を恵那の木で作るといい。 ○「森のチエプロ」という企画をした。森と木を生かす方策についてアイデア出しをし、次年度以降、商品化へつなげた。 ○「城主木」でオリジナル製品を作りたいと考えているがデザインが難しい。 ○売れて生産が追いついてくるので、まずは売ることを優先に進める。 <p><「山を維持しながら、資源として活用する取り組み」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境譲与税を活用して取り組みを進める。 	○森と木の価値を高める検討会として、木製品販売で成功した講師を招き講演会と検討会を兼ねた「木製品アイデア検討事業」を開催	<p>⑧地域商社事業（DMO）（再掲）</p> <p>⑨オリジナル木工製品開発促進事業</p> <p>⑩地域全体での木材活用事業</p>	
		知恵とネットワークを生かしたものづくり	事業者連携で地産地消を進め、新たな価値をつくる	・異業種連携を促進する仕組みづくり			<p>⑧地域商社事業（DMO）（再掲）</p> <p>⑩地域全体での木材活用事業（再掲）</p>	
		市場開拓・販路拡大	流通を確保する	・市内産材を市内で利用してもらう流通の確保 ・地域全体での木材活用	<p><「地域全体での木材活用」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新築住宅に使用する木材を少しでも市内産材にすると経済効果大きい。 ○「エコ住宅の推進」「木質バイオマス事業の推進」「木工」の3つの取り組みを進めようと考えている。 ○市内産の木材の利用を増やすにはどの分野でどれだけの需要があって、どれくらい供給できるかなど総合的に考える必要がある。 ○全国的に見て、木材供給量は不足しているが、人がいないため切る量を増やせない。 ○市営住宅を木造で高性能なものに造り換え、住んでもらった人に同じような住宅を建ててもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合計画において住宅施策を検討するよう提案 ○木材製材所への聞き取り ○卸売業者への聞き取り ○住宅施工業者への木材利用調査を実施 	<p>⑧地域商社事業（DMO）（再掲）</p> <p>⑩地域全体での木材活用事業（再掲）</p>	
	集客・交流産業の振興	集客・交流産業の振興	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	・体験プログラムなど観光での活用				⑧地域商社事業（DMO）（再掲）
		集客できる拠点の整備	楽しんでもらえる場所をつくる	・林業体験できる場の整備				
		魅力発信	市内外に魅力を知ってもらう	・体験から定着へつなげる仕組みづくり	<p><「担い手対策として、体験から定着へつなげる仕組み作り」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験ツアーの中から山仕事手習い塾でチェーンソー講習など、より深い林業体験をしていただきインターンシップへつなげていく取り組みを実施する。 ○「森と木のシゴト」見学体験プログラムを実施し、参加者が希望する見学体験をアレンジする。 ○森のジョブステーションとも連携すべき。 ○採用して3年は補助金があるが、1人前になるには5年～7年必要。森林環境税を使って経営安定化を支援してほしい。 	○担い手対策としてチェーンソー講座の継続とインターンシップを取り入れた「森林整備担い手対策事業」を実施	<p>⑧地域商社事業（DMO）（再掲）</p> <p>⑩えなの森林魅力発信事業</p>	

第2回恵那市産業振興ビジョン検討部会（林業部会）

	経営基盤の強化	経営支援	時代に対応した持続する経営体制を整える	(未着手)	<経営の安定化について> ○賃金を上げるには生産性向上が必要。 ○生産性向上には①技術力アップ②高性能機械の導入が必要。			
		経営基盤の強化		(未着手)				
		新たな担い手発掘と育成	起業・創業しやすい環境をつくる	(未着手)				
	人材の確保・育成	人材の確保	働きたいと思われる職場をつくる	・体験から定着へつなげる仕組みづくり ・木を切る人が不足	<「担い手対策として、体験から定着へつなげる仕組み作り」について> ○体験ツアーの中から山仕事手習い塾でチェーンソー講習など、より深い林業体験をしていただきインターンシップへつなげていく取り組みを実施する。 ○「森と木のシゴト」見学体験プログラムを実施し、参加者が希望する見学体験をアレンジする。 ○森のジョブステーションとも連携すべき。 ○採用して3年は補助金があるが、1人前になるには5年～7年必要。森林環境税を使って経営安定化を支援してほしい。 <「地域全体での木材活用」について> ○全国的に見て、木材供給量は不足しているが、人がいないため切る量を増やせない。	○担い手対策としてチェーンソー講座の継続とインターンシップを取り入れた「森林整備担い手対策事業」を実施 ○森のジョブズステーションを活用し、事業PR	㊦ えなの森林魅力発信事業(再掲)	
		市民が事業者を知る機会の創出	地域の人に事業者の魅力を知ってもらおう	・林業者の情報発信に関するノウハウ不足				
		潜在的人材の発掘	まだ働いていない人に活躍してもらおう	(未着手)	<潜在的人材の発掘について> ○半林人材も見据えて確保すべき	○担い手対策としてチェーンソー講座の継続とインターンシップを取り入れた「森林整備担い手対策事業」を実施する。 ○森のジョブズステーションの活用	㊦ えなの森林魅力発信事業(再掲)	
		人材育成	伝統や文化、技術を伝え、次の担い手を育成する	・人手不足のため育成できない ・オリジナル製品開発 ・付加価値の高いビジネスモデルの構築	<技術の向上について> ○岐阜県の技術者育成研修を活用できるといい <オリジナル木工製品の開発について> ○「森の子エプロン」という企画をした。森と木を生かす方策についてアイデア出しをし、次年度以降、商品化へつなげたい。 ○「城主木」でオリジナル製品を作りたいと考えているがデザインが難しい。 ○売れて生産が追いついてくるので、まずは売ることを優先に進める。	○担い手対策としてチェーンソー講座の継続とインターンシップを取り入れた「森林整備担い手対策事業」を実施する。	㊦ オリジナル木工製品開発促進事業(再掲) ㊦ えなの森林魅力発信事業(再掲)	
	③バランスの取れた企業誘致	産業基盤の強化	企業立地の促進	地域に必要な企業を誘致する	(未着手)			
			地域の個性を生かした産業基盤の強化		(未着手)			